

令和4年度  
(2022年度)

自己評価・学校関係者評価 報告書

令和4年10月 実施  
令和4年12月 作成

西武学園医学技術専門学校

## I. 評価の基本方針

### 自己評価について

#### 1. 自己評価実施方法

学校長、事務長、各科より選任された教員及び職員の代表で構成される自己点検評価委員会にて、評価項目の設定及び点検・評価を行う。

#### 2. 評価について

評価は、「4 (適切)」、「3 (ほぼ適切)」、「2 (やや不適切)」、「1 (不適切)」の4段階の評価として明記し、項目に対しての年度の「具体的方策と取り組み」を明記し、「取り組みのあり方とその成果」について評価し、次年度に向けたあるいは長期的な計画に基づく「成果と課題」として明記する。

#### 3. 自己評価の項目

自己評価の項目は以下に示す10項目を大項目とし、評価項目(質問)と具体的方策と取り組み、内部評価、成果と課題として明記する。

なお評価項目については「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成25年3月生涯学習政策局)を参考とした。

##### ・大項目

- |             |              |               |          |
|-------------|--------------|---------------|----------|
| (1) 教育理念・目標 | (2) 学校運営     | (3) 教育活動      | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援    | (6) 教育環境     | (7) 学生の受け入れ募集 | (8) 財務   |
| (9) 法令等の遵守  | (10) 社会・地域貢献 |               |          |

#### 4. 教育目標と計画

##### (1) 学校の教育目標

本校は専門知識と技能を修得し、ホスピタリティの心、情緒豊かな人間性を養い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。

##### (2) 学校としての思い

入学時の願い(将来の希望)を実現させるための教育環境を提供し、具体的には国家資格取得と就職へ向けた支援に取り組む。

##### (3) 重点目標と計画

- ① 退学者・留年者を減らす。
- ② 卒業率・国家試験合格率を上げる。
- ③ 学習環境の整備を徹底する。
- ④ 学ぶ意欲を向上させる取り組みを実施する。
- ⑤ 教職員が学生各自に向き合い学習支援を行う。
- ⑥ 広報活動の適正化を進め、衛生系・医療系で活躍したい学生を確保する。
- ⑦ 学生の就職支援を徹底し、また就職に値する人間形成指導を行う。
- ⑧ 教職員の教育力を向上させる。
- ⑨ 学びたい学校、学びたくなる学校、学びに応える学校づくりを推進する。

#### 5. 評価項目の達成及び取り組み状況

※評価点「4 (適切)」、「3 (ほぼ適切)」、「2 (やや不適切)」、「1 (不適切)」

内部：学校教職員による自己評価

## 学校関係者評価について

### 1. 目的

- ①自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

### 2. 評価のポイント

- ・自己評価結果の内容が適切か
- ・自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ・学校の重点目標や評価項目等が適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

### 3. 評価結果の公表・活用

- ・学校関係者評価委員会等はその評価結果や今後の改善策等についてとりまとめ、広く公表する
- ・学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的に改善を図る。

## Ⅱ. 重点目標

### 1. 重点目標

#### 教務部門および管理部門

- ・各学年進級率 95%。
- ・卒業率 100%、国家試験合格率 100%。
- ・卒業までの就職内定率 100%。
- ・予算の適正執行ならびに財務の基盤安定を図る。
- ・募集目標を達成する。

### 2. 取り組み・方策

- ・支援テスト・小テストの実施及び成績不良者に対する補習の強化。
- ・国家試験過去問題の完全解答と確認模擬試験の早期実施。成績不良者への補習。
- ・就職説明会や就職案内の早期実施と内容の充実化に向け、教務および事務の協力体制をとる。
- ・コストを意識し予定外の支出を抑制する。  
各媒体の見直しを行い効果的な募集活動を行う。
- ・学生ひとり一人に対するフォローを強化し、長期欠席を減らす。
- ・SNS 等活用し、学校の存在を広くアピール。

### 3. 成果・結果

- ・全学科：卒業率 100%
- ・全学科卒業時就職内定率：100%
- ・学内環境を改善し、より勉強しやすい雰囲気になっている。
- ・募集目標の達成

## 西武学園医学技術専門学校 自己評価委員会

委員長 : 学校長  
副委員長 : 統括事務長  
          : 事務長  
委員 : 臨床検査学科 科長  
          : 臨床1年担任  
          : 臨床2年担任  
          : 臨床3年担任  
          : 実験室担当  
          : 栄養士科2年担任 リーダー  
          : 栄養1年担任  
          : 実習担当  
          : 実習担当  
          : 経理担当  
          : 広報担当  
          : 広報担当

※令和4年10月に上記自己評価委員にアンケート調査を実施

## 学校関係者評価委員会

委員長 : 関係企業 (地元企業) : 相川 徹 様 (株式会社みらい)  
委員 : 卒業生 : 菊池 信子様 (栄養学科)  
委員 : 卒業生 : 西俣 奈々様 (臨床検査学科)  
委員 : 関係企業 (就職先) : 伴 敏伸 様 (株式会社東京公衆衛生研究所)  
委員 : 関係企業 (実習先) : 木藤 光雄様 (株式会社東洋食品)

開催日時 : 令和4年11月13日 (日)

出席者 : 上記 学校関係者評価委員会 5名

          学校事務局 学校長、統括事務長、事務長

実施方法 : 今年度の自己点検評価報告書を基に、  
          各規準項目ごとに説明を受け、評価を行った

### III. 大項目毎の記述

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・理念・目的・育成人材像は定められているか	・教育目標は学則にかかげ、入学時に教育要項を配布し新入生に読み上げ、話しをする。またその教育目標を常に目にする場所にかかげ、意識づけがなされるようにする。	4
・学校における職業教育の特色は何か	・職業人として、また専門職として即戦力となる実学教育に重点をおいた教育内容を実施している ・オアシス運動の徹底。	4
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	・各学年事に保護者会を実施し、教育目標や理念学校の取り組み等についての周知を図る。 ・学校案内、HP、学校新聞等にも理念、特色、将来像、学園の取り組み等を記載している。	4
・業界のニーズに向けて方向付けられているか。	・年2回校外実習施設の実習責任者を集めての会議行い、本校の学生のイメージと必要とされる職業人としてのイメージをとらえるようにする。 ・講師会議を開催し、教育課程編成委員会として機能させ求められる育成人物像について協議をし、それを共有している。 ・本校教職員が外部関連団体等に参加し、業界の情報を取り入れている。	2
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学直後のオリエンテーションで、本校の教育目標について詳しく説明している。</li> <li>・社会のニーズをとらえるため、実習施設と連携をとりながら講義内容に反映させるよう取り組んでいる。</li> <li>・今年も昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響が残っており常に実習施設との連携を意識しているが、実習施設の技師長との対面会議は実施する方向で調整している。ただ、書面やZOOM等で連絡を取り最大限の教育効果を出せるように工夫をしている。</li> <li>・先輩からの講演や講義、現場の生の声を強く伝える取り組みを必要と考えられるので、今後、そのようなより現場に近い声を学生に届けられる様「特別講義」を実施する。</li> <li>・今年度は、コロナ禍ではあるが、講師会は開催する予定。</li> <li>・上記のとおりコロナ禍の中、様子を見ながら外部講師と連絡を取り、特別講義等を行い、教育理念、目標の達成に努めている</li> </ul>		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は適切である。</li> <li>・教育理念・目標についてコロナ禍であるが前向きに取り組んでおり評価に同意する。</li> <li>・入学時のオリエンテーションで教育理念・目標を詳しく知ることができたので適切である。</li> <li>・新型コロナ対策や教育効果を上げる工夫が見られ、校外実習に重きを置いていることも評価できる。教職員が業界情報をいち早く取り入れ、共有できているのも良いと思う。</li> <li>・臨床検査学科では新カリに伴い臨地実習先の担当者は「臨地実習指導講習」を受ける必要があり、コロナ禍ではあるが密な打合せが必要と考える。</li> </ul>		

(2) 学校運営

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・ 目的に沿った運営方針が策定されているか	・ 予算等については前年度後半にまた教育、事務部門の方針については年度のはじめに学校全体で会議を行い決定する。	4
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	・ 部門ごとに年度はじめに学校全体で会議を行い決定する。	4
・ 運営組織や意志決定は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	・ 最終的な決定権は理事長、学校長にあるが、部門がそれぞれの運営組織として機能するよう配置する。	4
・ 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。	・ 部門ごとの長による意志決定システムを構築している。	4
・ 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか。	・ 各種規則、規定等を整備しコンプライアンス体制を整備し運用していく。	4
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	・ HP、学校新聞等に教育活動の掲載、そして保護者会での情報の開示をしている	4
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	・ 財務、教務、広報と連動した情報システムを構築し効率化を図れるよう整備する。	3
<b>成果と課題</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度の初めの会議を通して運営方針を決定し、学校運営は教育的な部門では、ほぼ目的にそって計画的に運営されたといえる。</li> <li>・ 授業評価の定期的な実施し、結果を各担当にフィードバックし、次年度に向けた授業改善に取り組んでいる。</li> <li>・ 今年もコロナ禍で一部授業を遠隔授業で行ったが、対面授業を基本とし、学生に負担をかけ無い様、方策を講じている。</li> <li>・ 情報開示に関しては、出来る限りの事はしており、県庁学事課からの通達も随時アナウンスしている。 学校の様子、コロナ禍に関する連絡等は本校HPで学生用のページを作成しそこから連絡発信が出来るようにしている。</li> </ul>		
<b>学校評価コメント</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価は適切である。</li> <li>・ 学校運営の評価に対し同意する。</li> <li>・ 臨床検査技師の協議会に積極的に参加し、円満な業務運営に寄与している。</li> <li>・ 今年度からの新カリキュラムの対応も評価する。</li> </ul>		

(3) 教育活動

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	・教育理念に従い、教育課程の編成・実施方針を策定し、教育要綱として学生に配布する。	4
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	・教育到達レベルや学習時間について教育要綱に必要時間数を記載したカリキュラム表を明記し、講義要項に教育到達レベルを明記する。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	・指定規則及び指導要領に従い編成を行う。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	・実践的な教育を行うと共に、科目の連携を図り、キャリア教育を充実させている。あわせて、校外施設見学を設けて早くからの意識づけを行う。	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか。	・校外習先指導者を集めた責任者会議を行い、実習前教育、実習内容の見直しを行う。	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか。	・臨床検査技師科では臨地実習を560時間、栄養士科では90時間程度実施しており、全学科で産学連携によるインターンシップや実技、実習等を実施している。	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	・全学科、全学年で授業評価を年2回行い、学生からの評価、講師等からの評価を行っている。各科で開催している講師会議にて半期ごとの報告を行う。	2
・授業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	・現在のところ行っていない。	1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	・成績評価、単位認定の基準は学生要項に明記し、またその内容については、講師会議にて学生の状況を正確に把握し、学校として教育のレベルの確保に努めている。	4
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	・指定規則及び指導要領に従ったカリキュラム編成である。	4
・人材育成目標に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか。	・専任教員全員が必要となる国家資格を有し、欠員が生じた場合には補充する努力を行っている。 ・また経験豊富な兼任教員を確保している。	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか。	・業務提携等は行っていないが、実習先等の卒業生を特別講義等にお願ひし、現場との連携を図っていく。	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	・関連学会や研修会に参加できるよう案内を行い、参加を促す。	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	・教職員のための内部での研修を計画・実施し、外部研修については積極的に参加できる体制を強化する。	3

#### 成果と課題

- ・実習前の技師長会は対面では行えなかったが、書面・ZOOM等で行い、最低限必要な教育レベルをお互いに確認し、実行できた。
- ・学生に対する心のケアが必要になってきている。
- ・心理面（最近多くなってきている）での相談が最近非常に多く、学校側もその相談に応えられるような体制が必要となっており学校から紹介できる心療内科を用意した。
- ・実習における実践的な教育により実習先からは良い評価を受けている。
- ・学生便覧を配布し、カリキュラム、学則、内規等を説明している。
- ・授業評価に関しても関係者評価を行うことで客観的な評価体制を構築するよう今年も引き続き考えていく。
- ・不足している教員については早急に募集することで人材確保を図る。
- ・部外講師の次年度の人材確保のため、特別講義に2名（臨床化学、臨床生理学）招聘し講義を実施し部外講師との連携を図った。
- ・臨床検査技師教育関連の埼玉県内大学・短大・専門学校及び臨床検査技師科会との連絡協議会に積極的に参加し、学内教育や臨地実習等の情報を共有し問題点の改善等円滑な業務運営に寄与できた。
- ・今年度からの新カリキュラムの導入（臨床検査技師科）に伴い、授業コマ数や実習時間が増加するが、それらに対応できるように授業総時間数を増やしている。

#### 学校評価コメント

- ・評価は適切である。
- ・教育活動の評価に対し同意する。
- ・実習時に実践的な教育を受けたので臨地実習時にとっても役立った。
- ・新旧カリキュラムが混在する中での、学生指導は大変なことではあるが、学生一人ひとりに合った指導をするためにも適切な教職員を配置し、運営してもらいたい。

(4) 学修成果

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・就職率の向上が図られているか。	・就職相談は担任を中心に履歴書の書き方、面接指導等を行う。 また、最終学年には就職説明会や就職案内等を行う。	4
・資格取得率の向上が図られているか。	・資格取得の対策として、後期から国家試験前日まで特別講義や補講を授業時間外にも実施し学力向上に向けた取り組みを実施する。	4
・退学率の低減が図られているか。	・退学率低減のため、学年担任制により、担任が毎朝出席確認や生活習慣の指導等を行い、無断での遅刻や欠席を確認し、学生の様子をチェックする。	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	・具体的な評価機構は設けていないが、関連学会にて卒業生の活躍を確認し、卒業生の声を拾うようにする。	2
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	・実習先には多くの卒業生がいるため、実習中の挨拶回り等で責任者から、卒業生の様子を伺い、それらを学校の教育活動に積極的に取り入れている。	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職については、まだ決定していない学生は継続した就職の斡旋と指導が必要である。 しかし、国家試験対策に重きを置き、国試合格の見込み者を優先的に就職斡旋している。 (他の学生も希望があれば就職斡旋はしている)</li> <li>・成績の向上の遅れがある場合はなかなか内定をもらえることが出来ないのではその対策強化が必要である。</li> <li>・臨床検査学科ではコロナ禍で人手不足で求人(急募)が多い中、目先の事にとらわれずに、長期的な目線で就職活動をするように指導。</li> <li>・栄養学科は早期学力向上と面接対応等の取り組みを強化し内定の早期獲得に向けて取り組む必要性があり、 3月末での100%内定に向けての取り組みを強化していく。</li> <li>・今後必要とされる知識は、国家試験に対する指導だけでなくより柔軟に物事に対応できる人材育成の教育システムを構築する必要がある。</li> <li>・退学者は例年一定数はいるが、退学者の低減をはかるため、学力の不十分な学生への学習指導、補習等を行うことで、進級率の向上と退学率の低減が見られた。</li> </ul>		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連学会以外での卒業生の活躍の確認方法を考えてもらいたい。</li> <li>・学修成果・課題に対しコロナ禍で人材不足が想定できるが、評価に対し同意する。</li> <li>・就職指導では履歴書の書き方から教えてくれたのでとても良かった。</li> <li>・学生への学習指導、補習で進学向上、退学の低減が図れている。</li> <li>・臨床検査学科の広報活動として国家試験合格率はとても重要なことであり、合格率を上げるためではなく、出願者全員が合格できるような教育支援をお願いしたい。</li> <li>・栄養学科の就職100%内定も大切なことだが、卒業後の教育として管理栄養士取得の支援をお願いしたい。</li> </ul>		

(5) 学生支援

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	・担任と事務局が共同しながら支援を行う。	4
・学生相談に関する体制は整備されているか。	・担任が面談を通し相談を受ける体制を整えると共に、事務局も含めて支援を行う。	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。	・事務局に奨学金担当をおき、相談の窓口とする。 また、学校では日本学生支援機構の奨学金だけでなく学校独自の奨学金を整備していく。 ・高等教育無償化の対象校となり、経済的困難な学生に支援を行う	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	・年1回健康診断を行い、近隣医院の医師を専任として契約を行い、相談できる体制をとっている。	4
・学生の生活環境への支援は行われているか。	・担任によりアンケートや面談を行い、生活環境を確認し、問題がある場合に相談にのり、必要であれば保護者を含めた三者面談等を行う。	4
・保護者と適切に連携しているか。	・入学式において保護者に学校説明を行い、各学年において保護者会を行い、学校の様子を見てもらうと共に、何か問題や心配があったときに連絡をいただき、相談を行うこととする。	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	・近隣の中学、高校からの職場体験、体験実習を受け入れる。	2
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職関係資料を整え閲覧できるようにしている。</li> <li>・学生相談については担任制により学生から相談しやすい環境づくりをしているので一定の成果を得られている。</li> <li>・心理面（最近多くなってきている）での相談が最近非常に多く、学校側もその相談に応えられるような体制が必要となっていており紹介できる心療内科を用意した。</li> <li>・課外活動生活環境への支援体制は十分機能しているが、今年もコロナ禍で課外活動が制限されているが学内で出来るだけの事が出来るよう努力する。 その取り組みの1つとして、実際に商品化は実現しなかったが所沢市とコラボで所沢名産のスイーツを開発した。次の商品化に向けて動き始めている。</li> <li>・定期的に保護者と連絡を取り、必要であれば保護者にご来校いただき、一緒に学生支援をしている。</li> </ul>		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は適切である。</li> <li>・学生支援の成果・課題の評価に対し同意する。</li> <li>・就職関係の資料が閲覧できる環境だったのでとても良かった。</li> <li>・事務局に奨学金担当がいるので個別に相談・支援を行っているのが良い。</li> <li>・職場体験・体験実習にも取組み、地域社会とも共同している。</li> </ul>		

(6) 教育環境

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養成所指定規則及び養成所指導要領に従った施設や設備を十分に用意している。各階トイレのシンクには自動センサーの水道栓を用意し、衛生面に強化している。</li> <li>全館wi-fiを完備し、どこの教室からでもリモート授業が受けられるようにしている。</li> </ul>	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養成所指定規則及び養成所指導要領に従った実習施設と契約し、校外実習を行っている他、特別講義では現職者を講師として実習を行っている。</li> </ul>	3
<ul style="list-style-type: none"> <li>防災に対する体制は整備されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災責任者をおき、職員間で防災体制を確認していく。</li> <li>緊急時に備え、マニュアルを作成し、備蓄食（学生全員に約3日分）を確保している。</li> </ul>	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設、設備は必要性に十分対応できているが、今後もさらに改善していく予定である。</li> <li>学外実習については一定の成果を得ているがコロナ禍で各施設側も余裕がない状態であった。</li> <li>今後もさらに実習施設との連携を強化し、現場からの声を入れた教育を構築していく。</li> <li>昨年度から災害時、緊急時用の備蓄食（3日分、在校生全員分）を備えている。</li> <li>今後も防災、セキュリティ管理、安全管理、健康管理の向上・強化を図る。</li> <li>トイレのシンクは全て全自動センサーを完備し、衛生面に気を付けている。</li> </ul>		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> <li>評価は適切である。</li> <li>教育環境の成果・課題に対し、同意する。</li> <li>養成所指定規則指導要綱に基づいた施設や設備を確保し、衛生面の強化・全館Wi-Fi化を図り、リモート授業に対応できている。</li> <li>職員間で防災体制を強化し、セキュリティ管理・健康管理の向上と強化をしている。</li> <li>防災食の備蓄は良いと思う。</li> </ul>		

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・学生の募集活動は適正に行われているか。	・定員の上限・募集時期を守り、アドミッションポリシーに合う学生の募集を行う。また高校訪問、会場ガイダンス等で高校生や入学希望者に対し情報提供を行い、的確な人材確保に努める。	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	・年度更新による各種媒体のデータ見直しを通して、入学相談室にて正確な情報共有に努める。	4
・学納金は妥当なものとなっているか。	・消費税の増税に伴い、学費の見直しを進める。経費削減等を見直しを徹底し学生への還元を最大限に考える。	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査学科、栄養学科共に入学定員を充足していない。 今後少子化が進み、他校との競争が激しくなるため、定員充足にむけて様々な取組みを図る必要があると考えられる。</li> <li>・学生募集環境は常に変化しているため、求められている情報を迅速かつ適正に発信できるように努めていく必要がある。</li> <li>・SNSの活用、ネット広告の活用の強化などの必要がある。</li> <li>・より良い環境で学生が勉強できるように学納金の見直しは必要かと思う。</li> <li>・学納金については、さらなる消費税の増税にあっては、適正に教育が行えるように学納金の見直しを検討していく必要がある。</li> <li>・臨床検査学科、栄養学科は国の修学支援制度の「修学支援新制度」の認定を受けている学校であることを強調し、経済的に厳しい家庭でも学べることをアナウンスする。</li> <li>・専門学校はリカレント教育であることを強調し、学校法人のグループ校を卒業した人やその家族が入学しやすくするための策（経済的優遇制度）を導入し、学びやすい環境であることをアピールしていく。</li> <li>・栄養学科を希望する社会人経験者については国より「専門実践教育訓練給付金制度」の認定を受けていることをアナウンスし、一定の要件を満たせば教育訓練経費（授業料等）の一部がハローワークより支給される旨を伝え、社会人入学の動機づけを行う。</li> </ul>		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は適切である。</li> <li>・学生の受け入れ募集の評価に対し同意する。</li> <li>・情報提供を多方向へ行い、HPの充実、家族会、同窓会への人的交流を一層広めて強化してほしい。</li> <li>・入学相談室、学園祭等で対面で入試に関する情報をダイレクトに発信している。</li> <li>・「専門実践教育給付金」制度は対象学科に限られるが、社会への還元をもたらすので告知を強化したほうが良い</li> <li>・オープンキャンパスに参加し、入学された方は教科書代や実習衣代などの免除や減額特典を考えてほしい。</li> <li>・例えば評定平均3.5以上または3.0以上で漢字検定や英語検定などを取得している者は教科書代の減額特典など</li> </ul>		

(8) 財務

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	・短期的なものだけでなく、中長期の計画をたて、蓄財として今後にも備えるよう努める。	3
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	・年度当初の予算から大きく乖離しないよう、また予算計上していない予算外の支出に対しては、全体的な財務状況と照らし対応している。	4
・財務について会計監査が適正に行われているか。	・監査については外部からの監査を受けるようにするほか、公認会計士による定期的な監査も行っていく。	4
・財務情報公開の体制整備は出来ているか。	・自己点検及び評価を通して財務の適正さに努める。	4
<b>成果と課題</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算と乖離しないよう予算執行に努める。急な出費に対しては、全体を照らしバランスよく執行していくよう努めている。</li> <li>・外部監査については理事会に依頼し、平素は監査法人の公認会計士より定期的な指導を受けている。</li> <li>・財務諸表の整備の見直しを図っているので、早急に対応する。</li> <li>・今後も引き続き健全運営をして下さい。</li> </ul>		
<b>学校評価コメント</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は適切である。</li> <li>・財務の成果・課題の評価に対し同意する。</li> <li>・充実した教育を行うにあたって予算・収支計画を明確にし、対応している。</li> <li>・外部監査・内部監査を通して、適正な財務諸表の整備を希望する。</li> </ul>		

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	・学校評価を行い、法令、専修学校設置基準に従って運営を行う。	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	・学生の個人情報はサーバーにおき、指定のコンピュータのみがアクセスできるように管理する。 ・学生に個人情報保護についてのガイダンスを行う。	4
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	・自己点検評価委員会にて評価を行い、問題点について各課の責任者に提示し、改善を促す。	4
・自己評価の結果を公開しているか。	・内部での評価をホームページ上で公開していく。	4
<b>成果と課題</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検評価を行い、法令や専修学校設置基準に従って運営を行った。</li> <li>・学生の個人情報をサーバーのコンピュータに置き、指定のコンピュータのみデータの閲覧ができるよう管理をしている。</li> <li>・入学当初に個人情報保護について説明を行い、同意を得た。</li> <li>・自己点検評価を行い問題点の改善に努め、更に学校評価委員で意見を仰ぎ、今後の参考にしている。</li> <li>・自己評価、学校関係者評価は本校ホームページに公開している。</li> <li>・コロナ禍により遠隔授業を行うに当たり、個人情報の流出防止に努めている。</li> </ul>		
<b>学校評価コメント</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は適切である。</li> <li>・法令等の遵守の取組にて成果・課題の評価に対し同意する。</li> <li>・</li> </ul>		

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	・学園祭にて健康講座を開催、市民に向けた料理教室を展開している。	3
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか。	・市との官学連携を活用したメニュー開発の実践。 ・地域活性化、地産地消として「所沢ブランド特産品」として学園祭の際に紹介し、販売ブースを設ける。	3
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか。	・毎年1月に所沢市の依頼を受け官学連携講座(3回)を実施している。	3
<b>成果と課題</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年コロナ禍ではあったものの学園祭を3年ぶりに実施した。来場者は1日で200名を超え、各ブースともに賑わいを取り戻した。県庁からのイベント実施時のガイドラインを遵守しつつ、感染症対策をしっかりと行い無事に終了することができた。</li> <li>・これから実施するイベントの規模、対象者、感染防止をしっかりと検討し、行えるものは行っていく方向で考えている。</li> <li>・「すべてを中止にすればいい」という考え方は持っていない。</li> <li>・所沢市とコラボで毎年行っている「地産地消レシピ開発」は今年も感染防止対策をしっかりとったうえで実施し、産経新聞、毎日新聞、東京新聞でも取り上げられた。また、優秀賞作品は11月所沢市発行の「地産地消レシピ集」の表紙を飾っている。</li> <li>・近隣の医療生協さいたま生活協同組合埼玉西協同病院地域連携の「子ども食堂」事業において本校の調理実習室を提供し、子供の食育体験(収穫から調理まで)をサポート。</li> <li>・新所沢まちづくりセンターにおいて所沢市官学連携の一環として上記の「地産地消レシピ集」から一品選び所沢市在住の小学生と一緒に所沢市の地元野菜を使い料理を楽しむイベントが令和5年3月に予定されている。</li> <li>・所沢市の「よつとこ」において「秋の収穫祭」に出展し、「地産地消レシピ集」を配布し本校のPRも合わせて行い、賑わいを演出できた。本校のブースだけで450名の来校。「よつとこ」の職員からも来年度の出展を打診されている。</li> <li>・所沢市社会福祉協議会の「認知症サポーター養成講座」を前期「栄養学科」、後期「臨床検査学科」の学生がそれぞれ受講し、高齢者を地域で支える環境作りの必要性の理解を深めた。</li> </ul>		
<b>学校評価コメント</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で学園祭を実施できたので評価は「4」でもいいと思う。</li> <li>・社会貢献・地域貢献の取組、成果・課題について同意する。</li> <li>・適切な評価だと思う。</li> <li>・健康・衛生教育の場である学校で、指導・教育が行き届き、3年ぶりの学園祭が行われたのは評価できる。</li> <li>・地域の「所沢ブランド特産品」の取組や市との官学連携も充実し、学校・学生の成長を促している。</li> </ul>		